

# ホスピスだより tender loving care vol.31

松山ベテル病院 緩和ケア病棟  
〒790-0833  
松山市祝谷6丁目1229番地  
TEL 089(925)5000  
FAX 089(925)5599



医療法人 聖愛会  
松山ベテル病院

[www.bethel.or.jp](http://www.bethel.or.jp)



# お母さんありがとう

## ～ベテル病院の皆さんに見守られて～

令和元年5月10日未明、母は家族が見守る中、静かに逝きました。95歳でした。母は亡くなる3ヶ月と少しをここで過ごしました。この病院を選んで本当によかったです。母が亡くなつて4年ですが、ますますその思いが強くなっています。

母が救急で日赤に入院したのは、平成30年12月初めでした。「お産でしか入院したことがない」と言うのが自慢だった母にとっては、あまりにも大きな環境の変化だったのでしょう。一気に認知症が進んだ様子で、まるで別人のように表情が一変したのです。そして、この頃から気丈だった父がだんだんと弱り始めました。

日赤で痛みを和らげるための放射線治療をしていただきながら、転院先を考えなければならず、何もわからない私は急いでいろいろ情報を集め、ホスピス病棟のあるベテル病院を選びました。日赤で迎えるお正月が母と過ごす最後になるだろうと思い、個室をお願いし、私は仕事が休みの年末年始を母の病室で過ごしました。スタッフの皆さんの温かい看護のおかげもあり、少しずつ落ち着いた表情を見せるようになっていました。

ところが、年が明けて急性期の治療が終わり転院することになった時、ベテル病院は空き待ちだったため、日赤病院に紹介された他の病院に転院したところ、初日からパニック状態になってしましました。日赤とは看護体制が全く違っており、母の顔から日増しに表情がなくなり、食事もほとんど口にしなくなってしまい、正気を失っていました。このままこの病院で最期を迎えることになったらどうしようと危機を感じ、仕事を辞めて母を家に連れて帰ることを真剣に考え始めたとき、ベテル病院から連絡が入ったのです。本当に心の底から安堵したのを覚えています。母の様子に疲れ切っていた父は限界だったのでしょう。明日転院という日の夜、息苦しさを訴えて起き上がりなくなり、市内の救急病院に運ばれ入院加療になりました。

ベテル病院に転院した日は、あの国民的アイドルグループ「嵐」が活動休止宣言をした日で、テレビのワイドショーが「嵐」だらけだったのを覚えています。(ちなみに私は嵐の大ファン。母は大野くんがお気に入りでした。) 病室に案内された時、「わあ、すてき！病室じゃないみたい。」と思いました。私が仕事で平日は夜しか来られないこと、父が昨夜、市内の別の病院に入院したことを話すと、担当の看護師さんが優しく言葉をかけてくださいました。入院当初、まず事務的なお話になるだろうと思っていた私は、家族にも寄り添ってくださったことがとても嬉しかったです。しかも、転院で母はまたパニックになるのではと懸念していたのですが、私が手続き等でバタバタしている間もスタッフの方が絶えず優しい声を掛けてくださいたらしく、とても落ち着いていたのです。びっくりして、これなら安心してお願いできると思いました。

翌日は、仕事を終えてから夕方に病室へ行きました。テレビが母の方に向けて付けられていて、ベッド周りの状況からも、きちんと母に向き合ってくださっていることが感じられました。その次の日は、なんと母がご飯を食べていて、好物の豆菓子を渡すとぱりぱりと頬張ったのです。たった2日でこんなに変わるなんて！と、大喜びの私に看護師さんは「(食欲が出たのは)ステロイドのお薬を出しましたから」と言われましたが、それだけではなく温かい対応のおかげであることは一目瞭然でした。翌日、仕事の昼休みを利用して父のいる病院へ行き、「安心してい



いから」と母の様子を報告しました。県外にいる私の妹も、そんな状況を心配し、仕事や家庭の都合をやりくりして頻繁に来てくれていましたが、ほっとしたようで私たち姉妹の会話がだんだん明るいものになっていきました。そういう雰囲気が母にも伝わっているようでした。

スタッフさんたちのアドバイスで、ベッド周りや室内を母が普段使っていたもの、母の好みそうなイメージにカスタマイズし、お菓子やデザートなども母の好物を用意させてもらいました。「冷蔵庫に○○を入れてます。」とメモしておくとちゃんと食べさせていただいて、感動でした。母のためにいろいろ用意をするのがちょっと楽しみになってきました。だんだんと母の受け答えがまともになってきて、私の名前を呼んでくれるようになりました。「嵐」の番組と一緒に見ようと、私がベッドの横にもぐりこんだとき、「狭いやろ？ もうちょっと寄ってあげようか？」となんと自分の体をずらそうしてくれたのです。すっかり「母親」に戻っていました。涙が出そうでした。

病棟でのお茶会や陶芸教室などにもほぼ毎回連れ出してくださいで、母が楽しんでいる様子が伝わってきました。お雛様の前で看護師さんと一緒にしっかりカメラに向かって笑顔の写真を見せていただき、こんな笑顔を見せるようになったんだとまた感動でした。看護師さんたちに若い頃の自慢話や苦労話をいろいろおしゃべりしていることも知りました。母がすっかり心を開き、安心して過ごすことができている、ここに来て本当によかったと痛感しました。母の転院と同時に父も別の病院に入ったので、私は仕事をしながら昼休みに父の病院へ、夜は母のところへ通う毎日を送っていました。そんな私の生活にもスタッフの皆さんは気を配ってくださって、母共々元気をもらいました。

また、父は誤嚥性肺炎で入退院を繰り返すようになってしまい、こちらに入院させていただけないかと相談したところ、気持ちよく手配してくださったのです。父は3階の病棟でお世話になったのですが、嚥下や歩行のリハビリを父に合わせて根気よく行っていただき、あの気難しい父が魔法にかかったように機嫌よく前向きに療養に取り組むようになったのです。母も父も主治医の先生、病棟の看護師さん、リハビリスタッフの皆さん、栄養士さん、連携室の方、どのスタッフさんもお忙しい中、きちんと丁寧に話を聞いてくださいって、患者だけでなく家族にも寄り添ってくださっているという強い安心感がありました。少しでも気持ちよく過ごせるように、労いをいとわず対応してくださる様子に頭が下がりました。

母を見送った後も皆さんに支えていただいて療養を続け、小康を得て施設で過ごすことができた父でしたが、母が亡くなつてから10ヶ月後、母のところへ行つてしましました。母が亡くなつた後、父が何ヶ月かでも機嫌よく過ごすことができたのは、母と一緒にベテル病院で診ていただくことができたからだと思っています。父の最期もこちらの病院ならよかったですのにと、それだけが心残りです。

私たち家族一同、ベテル病院の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

母の誕生日（亡くなる1ヶ月前でした。）にプレゼントして下さった皆さんからの寄せ書きは大切に仏前に飾っています。宝物です。

（岡崎 菜穂子）

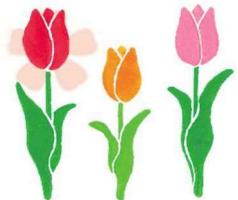


# ベテルの桜特集

当院では、春の訪れと共に、美しい桜の花が病院周辺に咲き誇ってあります。  
その優美な美しさは、多くの患者さまやご家族の皆さんに癒しのひと時となっています。  
入院患者さまには、穏やかな気持ちで過ごして頂けるように  
周囲の自然環境や四季の移り変わりを感じられるよう心掛けています。



桜がキレイすぎて、  
思わずバンザイ



# ～ボランティア活動再開のおしらせ～

アロマセラピー・アロママッサージ 井口愛さん

当院では、ボランティアさんによるアロママッサージを導入して、患者さまの心身ともにリラックスできる環境を提供しています。

アロママッサージは、植物から抽出した精油を使用して香りの力でリラックス効果や、ストレス軽減効果が期待できます。井口さんは、患者さまのお好みや気分、季節に合わせて、約120種類のアロマを選びアロママッサージを行ってくださいます。





## ボランティアを募集しています

病室へのティーサービスにご奉仕くださる方、  
病棟のお花やベランダの園芸のお世話をしてください方、  
こもれびの森のお手伝いをしてくださる方、  
チャペルでのレクリエーションにご協力くださる方等々。  
※心身ともに健康な方で、定期的・継続的に活動いただける方の  
問い合わせをお待ちしております。

ボランティア委員会 担当：森  
TEL : (089) 925-5000 FAX : (089) 925-5599  
E-mail : volunteer@bethel.or.jp



## ホスピス献金のお願い

ホスピス献金は、緩和ケア病棟等の援助など、  
聖愛会の諸活動の援助の為に聖愛会に  
寄付としていただいております。  
皆さま方の温かいご支援をお願い申し上げます。

### ★現金送金★

〒790-0833 松山市祝谷6丁目1229番地  
松山ベテル後援会（松山ベテル病院内）

### ★郵便振替口座★

口座番号：01610-2-25364

名義：松山ベテル後援会

※「ホスピス献金」として献げる旨と「金額」をご記入ください。

### 編集後記

今回もホスピスだよりをご覧いただき、誠にありがとうございます。

今回は、以前入院されていた患者さまのご家族から素敵なお便りが届き、紹介させていただきました。

現在、コロナにおける状況も落ち着きを取り戻しつつあります。院内のボランティア活動も徐々ではありますが、以前のような活動ができるようになってきております。今後とも患者さま・ご家族に寄り添い、より良いサービスを提供できるよう努力を重ねてまいります。

4階病棟 竹内、中矢